

志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ □はたす
--------	----------------------

活動名	「新聞記事の成り立ち」を学ぶ
教科・領域等	普通科, 総合的な探究の時間
活動学年等	1学年(普通科)
ねらい	新聞に取り上げられているニュースが、どのように紙面に配置され、書き手側が何を読者に伝えようとしているのかを知る。また、読み手として、どのような点に注意し、どういう意図で新聞の紙面は出来上がっているのか、新聞の果たす役割と目的について、実際に紙面を確認しながら、現役の新聞記者による「新聞記事の成り立ち」について講演を聞く。

【実践内容】

[志教育の視点]

地域課題を対象とした「探究学習」を進めるうえで、どこに視点を向けどのようなテーマ設定すると良いのかなどのアドバイスをいただく。質問づくりの基本となる5W1Hの視点を理解し使えるようにする。内容のまとめ方を討議することで、「質問する」という行為を通して、「相手に関心を持つ」「相手が話しやすいように傾聴する」「話を聞きながらメモをとる」「自分の考えを表現する」など、他者と関わるための態度や技術を総合的に学ぶ。

[活動内容]

1 出前講座

- 6月 ○外部講師(河北新報社防災・教育室 末永智弘氏)による「新聞記事の成り立ち」について講演を聞く
 - 新聞読み取り(朝日新聞と河北新報の読み比べ)
 - ・掲載記事の取り扱いの差を見つける
 - ・記事を取り上げ、地域ニュースの取り上げ方を探る

2 新聞を使った授業

- 7月 ○過去の新聞記事から地域ニュースを見つけ、課題を探る
- 新聞記事の難読語句や重要キーワードを掘り下げる
- 気になった地域ニュースを取り上げ、解決策を考える

3 活動記録をまとめる

- 8月 ○ポスターセッション(個人発表)
 - 質問力を鍛える(質問力を鍛える目的説明、個人による質問づくりの実践)
 - 他者を評価する(採点基準を与え、他者を評価し、アドバイスを考える)

4 成果や課題

新聞購読をしていない家庭も多くなり、新聞を目にすることが無い生徒も多くなっている。普段目にするニュースが意図的な要素が含まれていること、地域や町の話がどのように取り扱われているか、記者の目によって出来事の捉え方が違うことなどを学び、相手に情報を伝える難しさや、取り扱い方について注意すべき点を学ぶことが必要である。



志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ □はたす
--------	----------------------

活動名	「身近な多様性を知る～外国人労働者と技能実習生と私」
教科・領域等	普通科, 機械科, 電子工学科, 環境技術科・LHR
活動学年等	2学年(普通科)
ねらい	「多様性のある社会」の担い手となる生徒達が、身近な企業で働く外国人労働者の実状や課題を知ること、彼らと共に働き、共に暮らす生活を自分事として考えられるようにする。

【実践内容】

[志教育の視点]

自分と年齢の近い外国人労働者が、どのような希望を抱き、どのような事情を抱えて日本で働く進路選択をしたのか、将来どのような夢を持っているのか、その夢のために現在どのような努力をしているのかを知ることで、自分と彼らとの共通点や相違点について考えたり、自分の生き方について考えたりする契機とする。

[活動内容]

1 事前指導

「コミュニケーション英語」の授業を活用して、外国人労働者や技能実習生に関する事前指導、話の聞き方指導を実施。

2 講演会

学年LHR「身近な多様性を知る～外国人労働者と技能実習生と私」を実施。働く側、学ぶ側だけでなく、雇用する立場からも講話をいただく。

3 活動記録をまとめる

講話の記録をとる。直後に振り返り、感想作成。

4 成果や課題

外国人労働者や技能実習生の実態と課題を知ることで、自らも多様性のある社会の一員として働かねばならないという態度を育成できた。家族と離れて日本で働く気持ちや夢を追いかける気持ちを語る彼らの率直な言葉は、生徒たちの胸を強く打ち、「自分も強い気持ちで進路を考えたい」「夢を追いかけて日本で働く姿に感動した」「今度コンビニで見かけたら声かけます」といった感想が多く見られた。英語以外の授業の活用、メディアの活用など、事前事後指導の工夫が今後の課題である。



志教育の 視点	□かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	「昔遊びを学ぶ」について
教科・領域等	普通科、「子どもの発達と保育」選択者
活動学年等	3学年(普通科・「子どもの発達と保育」履修者)
ねらい	昔遊びを通じて地域の伝統文化への理解を深め、その伝承に努める意識を養うことを目的とする。また、自分が将来子育てや子どもたちと接する機会があった場合、遊びを通じてのコミュニケーションや、昔遊びの面白さを伝えられる人物となれるようにする。

[実践内容]

[志教育の視点]

昔遊びを通じて、子どもとのふれあい方、コミュニケーションの取り方、子どもの能力の伸ばし方を探る。自らも遊びの中にある伝承文化の面白さを体験し、次の世代に継続する役割を考える

[活動内容]

1 出前講座

「全日本独楽回しの会」会長でもある尚綱学院大学子ども学科教授・安藤正樹先生を講師としてお迎えし、折り紙やお手玉、紙飛行機作りや独楽回し等の実技を取り入れた体験型講演会を実施。昔遊びに含まれる面白さ、教育的側面、子供たちとのコミュニケーションの在り方を探る。講演を通して、遊びの中に含まれる面白さや学びを考える。

2 体験学習

実際に自ら遊びを体験することで、遊びの難しさやルール、遊びのコツなどを学ぶ。

3 活動記録をまとめる

それぞれの遊びを通しての教訓や、遊びのコツ、指導方法をまとめる。

4 成果や課題

大人と子どもと一緒に「昔あそび」をすることで、「教え合ったり、認め合ったりして、お互いに良い気持ちになれる」「自信を持てる」「成長が見てわかる」などの効果があること、また「コミュニケーションの道具として非常に有効」であることなど、「昔あそび」の効果や伝統文化継承の意義についてわかりやすく教えて頂いた。



また、実際にお手玉を使ってゲームをしたり、紙飛行機を飛ばしてみたり、独楽の回し方を教わって実際に回してみるなど、生徒も楽しみながら伝統的な「遊び」について学ぶことができた体験学習であった。将来子育てに役立つ授業となった。